

私の経歴

飯野純夫

私の特殊な経歴を説明するには就職した昭和 28 年から約 50 年の前期と後期で大量の機種の試験機を扱って来た仕事そのものについて話すのが分りやすいと思う。私の就職した東大無線(株)は東京大学の近くにあり、ラジオ、家庭電器の他に東大地震研、電気工学科、冶金学科に出入りしており私は技術営業の仕事をしてきたが、その当時冶金学 4 号館の芥川研究室では耐熱鋼の研究が行われていたがこの研究室では緊急事態にあった。

当時日本の耐熱鋼研究は列国に比べ著しく遅れており、例えば高温クリープ試験も英国ではすでに 1000 時間のデータもあるのに日本では設備も充分用意されていなかったが、英国にはこのクリープ試験に必要な温度調節機として L.E.prosser と呼ばれる精密なシステムがあることが分った。東京大学でも試作されていて至急製品化するメーカーが欲しいと聞いて、私の会社は戦前からのセットメーカーであり秋葉原に部品の店をもっていたのでこの話は最適と思い応募することにした。組み合わせる試験機の製作が京都の島津製作所にきまつたことは我々にとって大変な幸せだった。

同製作所は試験機の専門メーカーだったので納入時の運搬、据付け、立会い、検収、のノーハウもあり、我々の参考にもなり、関西出荷の拠点として私も頻繁に訪れ、第二の故郷の様になった。とにかく大学、官庁、研究所に計画が展開され周囲にもわかにか忙しくなってきたが、私も東京大学から紹介された L.E.prosser の技術者として訪問先から格段の待遇をうける立場を自覚し、最低限の機械金属の用語を入れたマニュアルを作り、長時間運転の指導を受け、社に戻り、終夜運転で昆虫の囁く様な有接点リレーの音を聞きながら眠りにつくことが習慣になっていた。

最初の納入先は機械試験所でそのあと官庁、学校、大企業等で引合、契約が次々に入り、一時はその事務的な仕事以外に何も出来ない状態になった。取りあえず製造部門の強化と電気炉の外注手配をして、専門の社員養成も始めた。

この間私としては大変な勉強が出来た。芥川研究室の先輩は親切で学識もあり、さすが最高学府の誇りを身に付け人たちと思えた。ここでの不思議な師弟関係は第 1 回の「高温クリープ試験のあけぼの」に書いたが、温度の設定がすむと自動の時間待ちになるのでその間に意見交換や、私が専門違い電気屋であることから互いに自己紹介の話もできた。

更に、芥川教授とはご逝去の後もご子息からも御世話になったことや、藤田教授からは私の仕事のことを気にかけてくださるなど師弟以上の恩恵のあるお付き合いだった。

外部の人とは私が島津製作所の担当者とプロッター温度調節器の付き添いで出向し、100 人以上のユーザーさんとお会いし、機械の説明し 20 年で約 200 セット納入できて、やがて温度調節器も他社の新製品が現れ新旧交換もおきた。私も将来を考える様になった。

冶金学の先生方からの「試験機は電気と新しいアイデアが入り込める隙間産業だと思う」というのがきっかけのコメントで前記 50 年の後半の本格的な自営となった。スタートと同時に電話付き事務所や自動車を貸して下さる先生もおられ、それから協力するメーカーも増え、新しい後期規模としては更に自動車産業にも広げ、これ以後の活動は更に活発な「試験機の絵本」としての約 30 年間に続く……



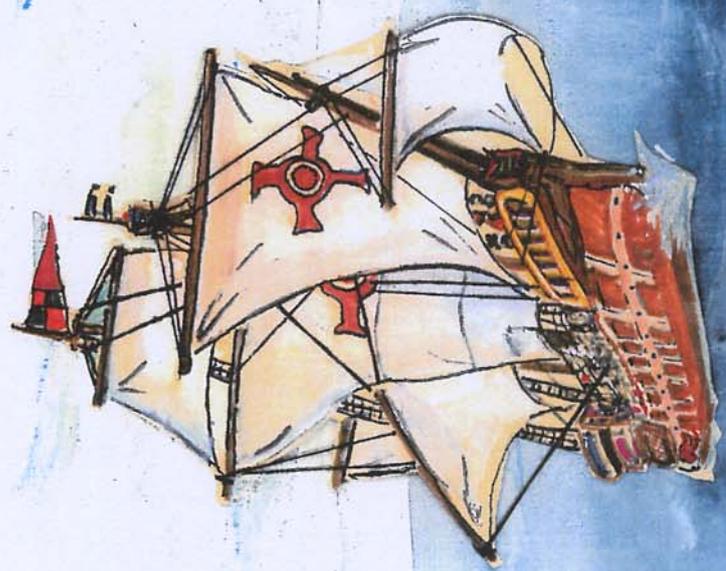
MSゴシック 10.5 B I U A * A

100%

TORSTON

大航海時代

いま、宇宙への大航海時代？



電気トーション試験機 コロンブスの卵



コロンブスの卵と、電気トーション（ねじり）試験機を結び付けたのは ちよっと無理なこじつけかな？

とも思う、詳細は本文でキーワードはやる気とひらめき

ELECTRIC TORSION TESTER